

北野 悦之 議員



南阿蘇村の防災体制は

A 備えあつて憂いなしの精神で規定により、村長が行う

Q 避難準備、勧告、指示発令のシステムは。

総務課長 災害対策基本法にのっとり策定。防災会議を毎年6月に開催している。非難発令は規定で村長が行う。避難準備の段階で役場職員6名が招集、本部に詰める。

Q 避難場所の再点検と設備の再確認は。

総務課長 村内の避難所については、再調査の上、見直したい。

Q 久木野地区農業用水の管理と防災との連携は。

建設課長 久木野土地改良区の管理の元に、河川ごと、樋門責任者が任命されていて連携はとれている。

Q 河川改修と防災上の監視体制は。

建設課長 ハード面では、追いついていないのが現状。総務・農政課と連携し、河川管理は県とも協議して進めたい。

総務課長 調査の終わっている久木野地区防災溪流の周知徹底を行うと共に、残りは調査を県が平成23年度から調査を行う予定。監視体制は全村7か所で防災監視を行っている。

Q 人命尊重の防災対策の体制作りを。

村長 現在、想定外の気象が起こつており、本村では加えて火山の防災も考えておかねばならない。備えあつて憂いなしの考えで進め、住民の意識を喚起、醸成し、防災体制作りには議会の協力も願う。

今村 六王 議員



広域での観光振興対策は

Q 九州新幹線開通後の観光客誘致対策とその成果は。

A 今のところ直接的な成果は見えていない

企画観光課長 入込客数は、ここ5年間では減少傾向、直接的な効果は今のところ見られない。また、観光客の動向のアンケートは実施していない。ゆるっとバスの利用状況は1か月1400〜1500人程度である。

Q 観光客誘致今後の対策は

A 「ゆるっと博」を核に広域連携を模索している

企画観光課長 「ゆるっと博」を核に阿蘇市、山都町、大分県竹田市等の連携による集客活動を行っているが、さらに宮崎県高千穂町まで含めた連携を模索している。

Q 高千穂町観光協会は法人化され、先進的な取り組みがなされている。観光協会もこのことを交流を活性化しては。

A 今後積極的に取り組みたい

企画観光課長 商工会、観光協会が一体となり協議会も発足して、観光ガイドあるいはレンタカー活用等についても具体的な検討も始まっている。

村長 新幹線効果は5月以降は上向きつつあるものの、その効果をどう阿蘇地域へ持ってくるのか、やはり広域での取り組みが重要な課題と考えている。観光協会とも更に連携を密にしながら取り組んでいきたい。



観光事業「さろく」